

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 4 区分

【発行日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)

【公開番号】特開 2004-327032(P2004-327032A)

【公開日】平成 16 年 11 月 18 日 (2004.11.18)

【年通号数】公開・登録公報 2004-045

【出願番号】特願 2004-188715(P2004-188715)

【国際特許分類第 7 版】

G 1 1 B 20/10

G 1 1 B 7/005

G 1 1 B 7/007

【F I】

G 1 1 B 20/10 3 2 1 Z

G 1 1 B 20/10 B

G 1 1 B 7/005 B

G 1 1 B 7/007

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 2 月 14 日 (2005.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、

前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程と、を含む、  
ことを特徴とする、光ディスク再生方法。

【請求項 2】

光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、

光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程と、を含む、  
ことを特徴とする光ディスク再生方法。

【請求項 3】

光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、

前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する手段と、を含む、  
ことを特徴とする光ディスク再生装置。

【請求項 4】

光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、

光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするか

を指示する信号を生成する手段と、を含む、  
ことを特徴とする光ディスク再生装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

上記目的を達成するため、本発明の請求項 1 にかかる光ディスク再生方法は、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程と、を含むことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、請求項 2 にかかる光ディスク再生方法は、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程と、を含むことを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、請求項 3 にかかる光ディスク再生装置は、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する手段と、を含むことを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

また、請求項 4 にかかる光ディスク再生装置は、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する手段と、を含むことを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】  
【手続補正 7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 8  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 9  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 0  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 0】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 1  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 2  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 3  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 4  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 4】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 5  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 5】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 6  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 7  
【補正方法】削除

【補正の内容】  
【手続補正 17】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0028  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 18】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0029  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 19】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0030  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 20】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0031  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 21】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0032  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 22】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0033  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 23】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0034  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 24】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0035  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 25】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0036  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0036】

請求項1の光ディスク再生方法によれば、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの

信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程とを含むこととしたので、エンベロープ信号を用いてアドレス領域とデータ領域のタイミングを簡易的に生成して、システム全体の安定化を図ることが可能となる。

【手続補正 26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

請求項2の光ディスク再生方法によれば、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する工程と、光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する工程とを含むこととしたので、アドレス情報が速やかに取得できない場合のある光ディスクからの読み出し開始直後に、エンベロープ信号を用いてアドレス領域とデータ領域のタイミングを簡易的に生成して、システム全体の安定化を図ることが可能となる。

【手続補正 27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

請求項3の光ディスク再生装置によれば、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する手段とを含むこととしたので、エンベロープ信号を用いてアドレス領域とデータ領域のタイミングを簡易的に生成して、システム全体の安定化を図ることが可能となる。

【手続補正 28】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

請求項4の光ディスク再生装置によれば、光ディスクから読み取った信号からアドレス領域又はデータ領域を示す情報を、アナログ処理系において抽出する手段と、光ディスクからの信号の読み出し開始直後は、前記情報に基づいて、アドレス領域からの信号のアナログ処理をするか、または、データ領域からの信号のアナログ処理をするかを指示する信号を生成する手段とを含むこととしたので、アドレス情報が速やかに取得できない場合のある光ディスクからの読み出し開始直後に、エンベロープ信号を用いてアドレス領域とデータ領域のタイミングを簡易的に生成して、システム全体の安定化を図ることが可能となる。

【手続補正 29】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 30】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 1  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 1】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 2  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 2】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 3  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 3】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 4  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 4】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 5  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 5】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 6  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 6】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 7  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 7】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 8  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 8】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 4 9  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 9】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 0  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 0】  
【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 1  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 1】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 2  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 2】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 3  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 3】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 4  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 4】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 5  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 5】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 6  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 6】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 7  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 7】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 5 8  
【補正方法】 削除  
【補正の内容】  
【手続補正 4 8】  
【補正対象書類名】 明細書  
【補正対象項目名】 0 0 6 6  
【補正方法】 変更  
【補正の内容】  
【 0 0 6 6】

有効フラグ発生回路 1 0 8 は、アナログ処理系に対する制御信号であるゲート信号の出力位置の信頼性を示す有効フラグを発生する。セクタカウンタ 1 0 9 は、光ディスク上の物理位置を示すために用いるセクタカウント値を保持し、後述するクロックセレクト回路 1 1 0 から入力される選択クロック信号と、アドレス検出回路 1 0 6 から入力されるアドレス検出信号とに基づいて、セクタカウント値を更新する。

クロックセレクト回路 1 1 0 は、データ同期クロック発生 PLL 1 0 2 が発生する同期

クロックと、サーボ 1 0 3 が生成する固定クロックとに対しての選択を行い、選択したクロック信号をセクタカウンタ 1 0 9 に出力する。

【手続補正 4 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 6】

実施の形態 2 .

本発明の実施の形態 2 による光ディスク再生装置は、大容量・高密度化に対応した記録形式のアドレス領域を有する光ディスクを記録媒体として用いるものである。

本実施の形態 2 による光ディスク再生装置は、実施の形態 1 と同様の構成であり、説明には図 1 を用いる。